

## 「おんぷのまちプロジェクト」新作デジタル紙芝居のお披露目を見学しました

安芸郡府中町のくすのきプラザで2024年3月2日（土）に、「おんぷのまちプロジェクト\*1」の新作デジタル紙芝居「らーぼうとシーじいちゃん（おんぷのまちのものがたり）」がお披露目されるとのことで、見学してきました。



この紙芝居は、子どもたちの豊かな心を育み命の大切さや思いやりの心を養うため、おんぷのまちプロジェクト代表の中村さんが、オリジナルで紙芝居を制作されたもので、3部作のうち2作目の作品です。1作目とともに、府中町からの要請により、幼稚園や認定こども園を始め、府中町人権フェスティバルにおいては手話も取り入れて紙芝居を上演しております。

今回は、2作目のデジタル版が完成したため、府中町立図書館が主催の府中町の読み聞かせグループ交流会\*2（36名参加）においてお披露目されました。

会場に入ると、前方にパソコンとスクリーンがセットされていました。上映のデータはPPT（パワーポイント）で作られています。ページを送りながらスクリーンの横におられる演者の中村さんと表現トレーナーの藤丸さん、そして音声学講師の河野さんの熱演により、登場人物の心の中までもが伝わってくる声色に挿入音のピアノの生演奏も加わり、楽しくなったり、悲しくなったり、温かい気持ちになったりと物語の世界に引き込まれます。



2作目のお話は、主人公の「おんぷのまち」に住む「らーぼう」が、保育園から帰ったら毎日一緒にすごしている家族の「シーじいちゃん」が病気になりやがてお星さまになるというお話。悲しみにあけ暮れた日々を過ごしていたある日、隣に住むお友達の「やすみ」ちゃ

んが「笑顔でいると、しーじいちゃんもきっと喜んでくれるよ」と優しく声をかけてくれ、二人は、お星さまになったしーじいちゃんに会いに丘の上に行きます。笑顔のらーぼうと再開したしーじいちゃんは嬉しそうな顔をしています。らーぼうはしーじいちゃんが見守ってくれていることがわかり、前を向いて元気に笑顔で生きていこうと思うのでした。

この物語は、命の尊厳や命のバトンが繋がっていくことについて、知ったり考えたりする機会を与えてくれる作品で、幼児を始め多くの方に見ていただきたいと感じました。



参加しておられた方からは、「紙芝居と、曲と読み手と相まって、すごく引き込まれて涙が出ました」「内容も良くて1作目から更にグレードアップされていると感じました。3作目が楽しみです」などの感想が寄せられました。この紙芝居が紙媒体に留まらず、デジタル化を進められた経緯は、「次世代に残すことが必要」との声が上がったことがきっかけとのことでした。現在、有志の皆さんと

オリジナル紙芝居3作目の制作と並行して、紙芝居のデジタル化、音楽制作、読み聞かせ後継者の育成に力を入れておられるようで、「心に響く読み聞かせ講座」の開催案内もありました。興味のある方は、是非、参加してみられてはいかがでしょうか。

### 「心に響く読み聞かせ講座」

日時：3月27日（水）14:00-16:00

場所：くすのきプラザ2階 研修室

申し込みなど詳しくは[こちら](#)



\*<sup>1</sup>元々は中村さんが個人で“紙芝居のおっちゃん”として活動を始められ、10年間、府中町の依頼を受けて府中町内の幼稚園、保育園、認定こども園に巡回公演をしてこられました。70代になられ、いつまでこの活動ができるかを有志に相談したところ、次世代に残すことが必要だとの声があがり、有志でこの団体を立ち上げ紙芝居のデジタル化と後継者育成を推進されています。

1作目のオリジナル紙芝居「おんぶのましろものがたり」は、次のURLより視聴いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=IYh5AKoc5fo>

\*<sup>2</sup>府中町では、「府中町子どもの読書活動推進計画（第3次）～本を通じて「志」を育む～」が2023年4月より進められています。現在町内には、15の読み聞かせ活動をしているボランティア団体があり、団体間の親睦を深めることを目的に交流会が開催されています。この日は、新作デジタル紙芝居のお披露目に続いて、SDGsをテーマにした絵本の紹介や読み聞かせ等も行われました。

（本郷）